

# 令和4年度学校自己評価(アンケートの集計と考察)

長野県稲荷山養護学校

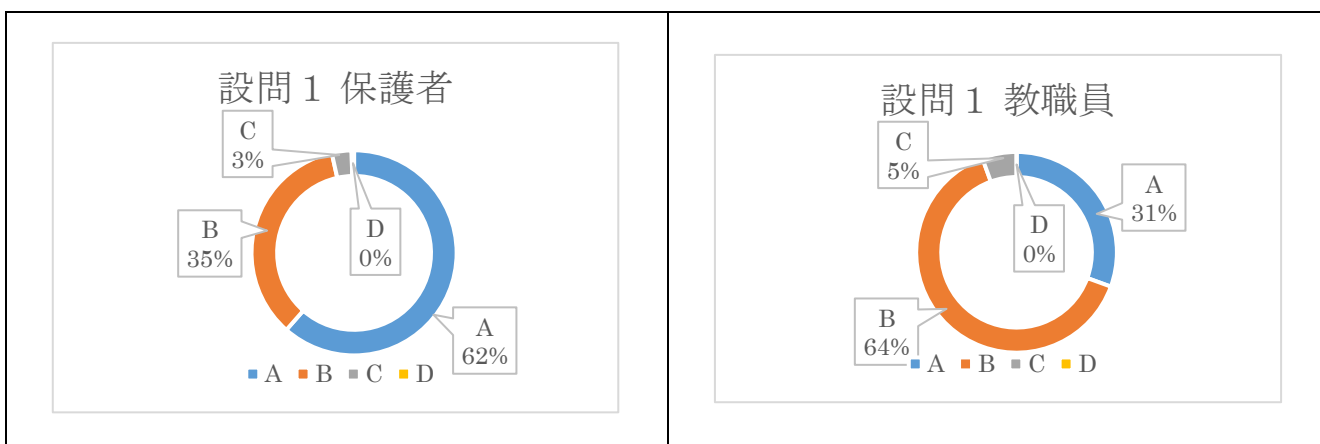
## 1 回収率 (※ 人数は児童生徒数)

	小学部			中学部			高等部			分教室			寄宿舎			大学部			合計		
	人数	提出	%	人数	提出	%	人数	提出	%	人数	提出	%	人数	提出	%	人数	提出	%	人数	提出	%
保護者	105	85	81	91	75	82	103	84	82	19	15	79	26	24	92				318	259	81
教職員																			185	180	97

評価基準 A: と思う B: だいたいと思う C: あまりそう思わない D: そう思わない

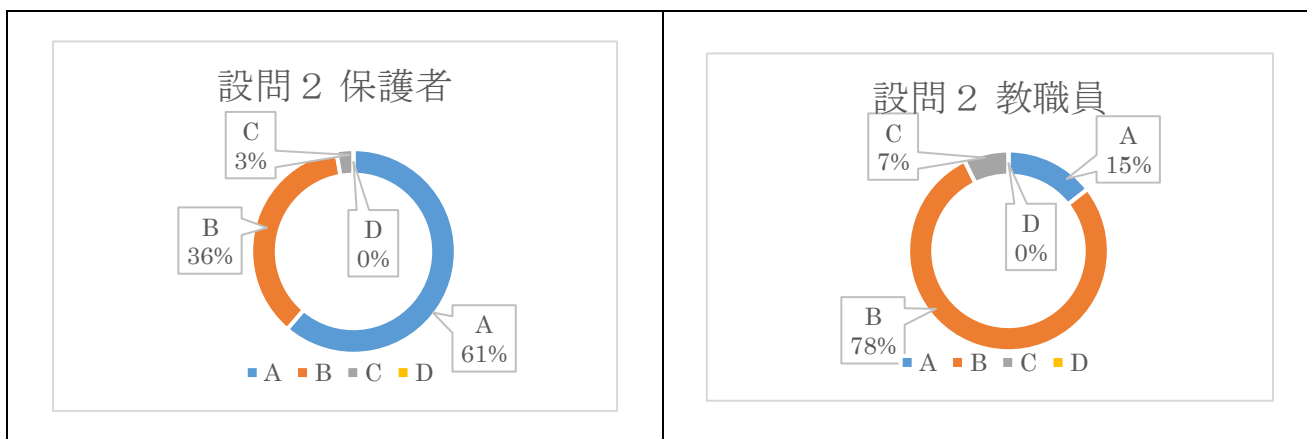
## 2 項目ごとの保護者・教職員間比較 (※ 設問は保護者アンケートの内容)

設問1 職員は、生活年齢や障がい特性に配慮し、特別支援教育の専門性を活かした教育を行おうと努力していると思いますか。



教職員・保護者共にAとBを合わせた評価が今年度も90%を超え、概ね良好な評価を得ています。保護者のCとDを合わせた評価は、5% (R2) ⇒ 5% (R3) ⇒ 3% (R4) と減少傾向ですが、保護者の自由記述には「もっと学校での様子を細かく聞きたい」という意見をいただいています。生活年齢や障がい特性への配慮や専門性を活かした取り組みの不十分な部分を見返して改善策を検討し、一人一人に応じた指導支援の一層の充実を目指すとともに保護者との共有をさらに大切にしていきたいと思います。

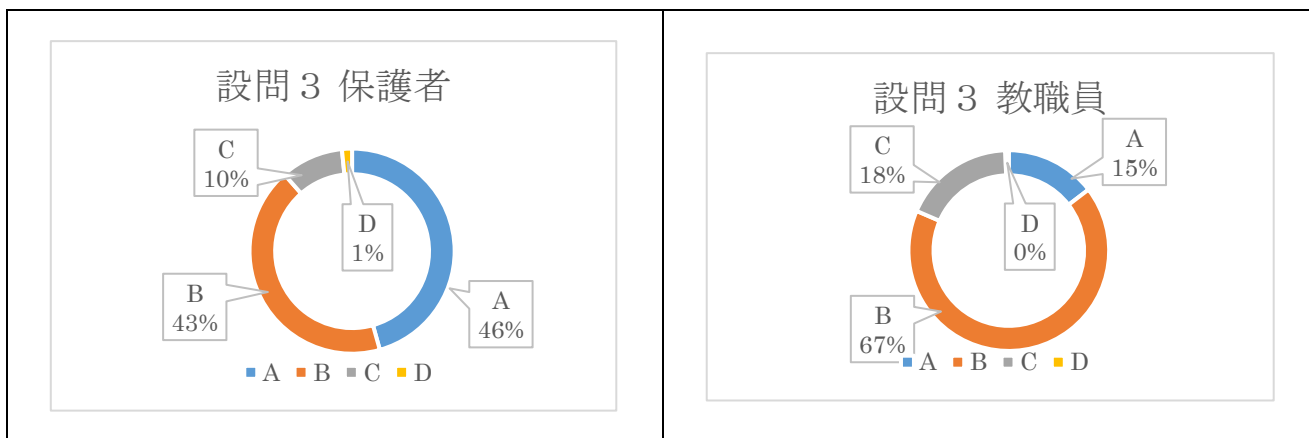
設問2 学校は、個別の指導計画を作成し、それに基づいて適切な指導、支援をしていると思いますか。



保護者のAとBを合わせた評価は97%と高い評価を得ています。保護者の自由記述で、「子どもの特性をよくみて、それに応じた支援方法が分かりやすくおとし込まれていた」とあり、個別の指導計画が保護者と学校で子どもの実態や指導支援の具体について共有できるものとなっていると言えます。一方で、保護者の自由記述で、「指導計画には、子どもの実態、障がいに応じた特別な支援をしながらと記されているが、実際に子どもの障がい、それに伴うハンデ、苦手な分野等を把握できていない。」とありました。また、教職員のAの評価が保護者に比べて低い評価となっています。(保護者61%、教職員15%)

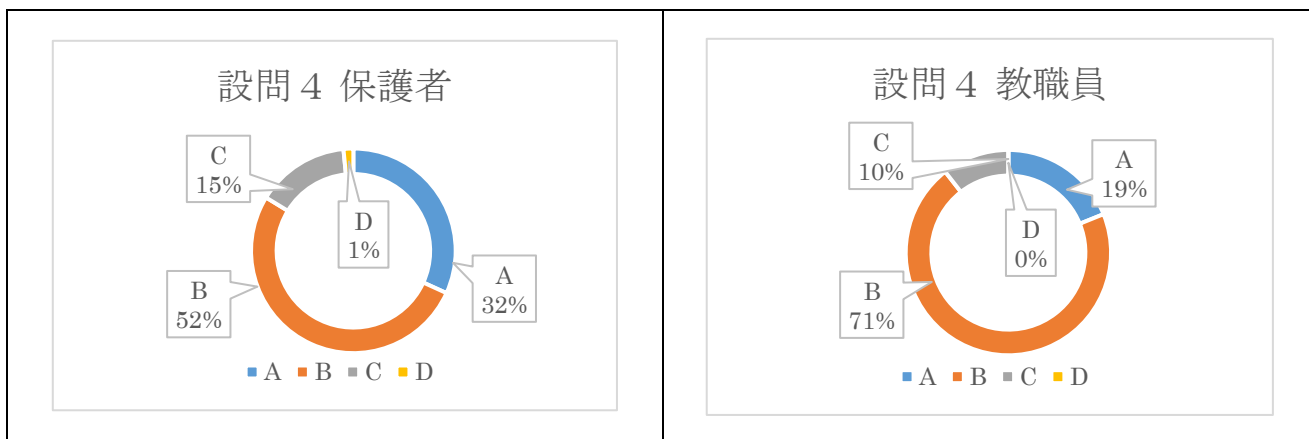
計画の立案や評価時など、課題がある背景（工夫や改善）を整理し、来年度以降も日々の指導支援における個別の指導計画の活用を今後も推進してまいります。

設問3 学校は、前年度の学級や学部からの引き継ぎが適切になされ、連携した指導、支援を行っていると思いますか。



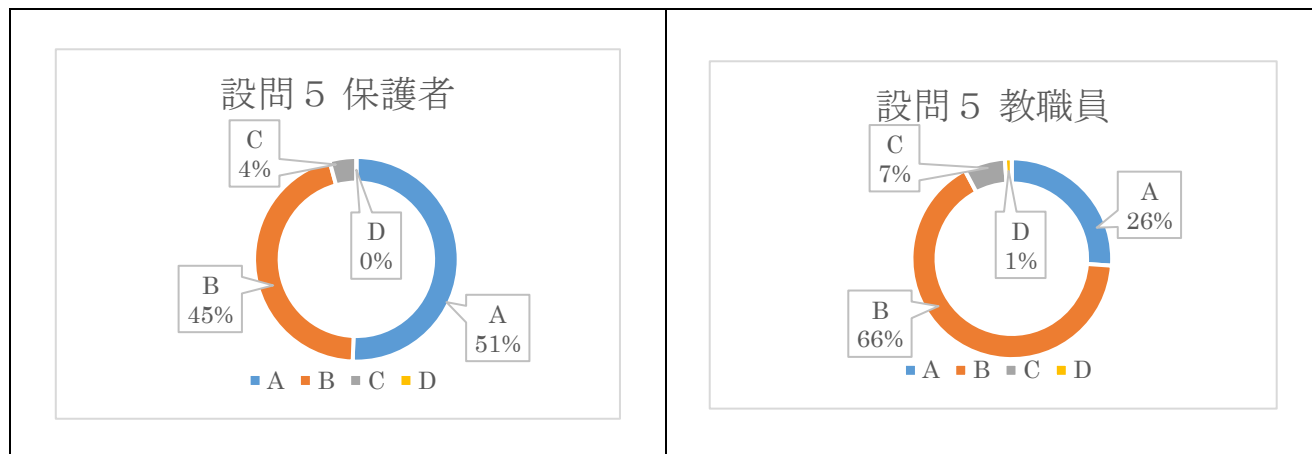
教職員・保護者共に A と B を合わせた評価が 80%を超えた評価を得ていますが、保護者の自由記述に「担任が変わり、引き継ぎがうまくいっていない」等の記述が複数挙げていただきました。教職員からも引き継ぎシートの必要性に関する記述もありましたので、学級、学年、学部の引き継ぎに課題があると考えられます。課題を明確にするとともに、部内、部間の引き継ぎ方、回数、時間、内容等の見直しを進めてまいります。

設問4 学校は、家庭・地域・関係機関（市町村の福祉関係機関、支援センター、ハローワーク、医療機関、児童相談所等）と有意義な連携を行っていると思いますか。



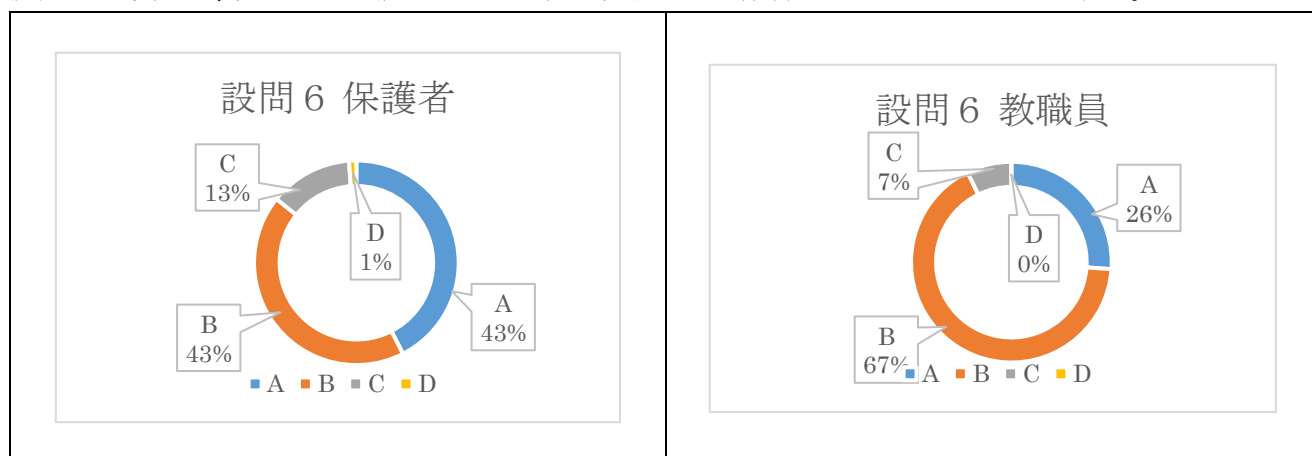
保護者の評価は昨年度と比較すると、Aが微増していますが、他の項目に比べてCが高いです。関係機関との連携については、コロナ禍の影響で支援会議等が中止となった昨年度に比べて、オンラインの活用等が進んだこともあり、Aが微増していると予想されますが、満足するまでには至っていないといえます。また、保護者と担任の連携について、自由記述に「連絡ノートでは書ききれず、困り事を相談できるタイミングが見つからない。やりとりできるツールがあるとよい」「ICT化進んでいる昨今、学校と保護者のやり取りがスムーズになる抜本的な改革が必要」等の記述が複数挙げていただきました。保護者、関係機関が充実した連携が実感できるように、よりよい方法を探ってまいります。

設問5 児童生徒は、学校生活を通してその子なりに基本的な生活習慣（あいさつ、身辺自立、性に関すること等）が育っていると思いますか。



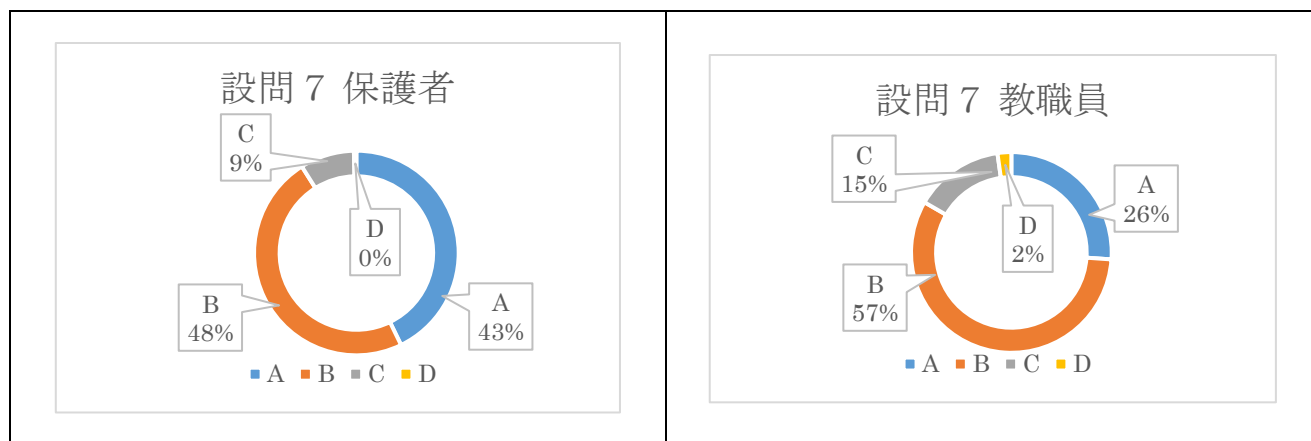
保護者、教職員共にAとBを合わせた評価が90%を超え、概ね良好な評価でした。保護者のAが50%を超えており、児童生徒の基本的な生活習慣の成長を感じている一方で、教職員のAが26%、Bが66%となっており、今後、具体的にどのような場面で、どのような支援によって、どんな育ちがあったかを明確にしていきたいと思います。あわせて、児童生徒の姿から、今後、どのような育ちが期待でき、どのような支援が有効かといった、先の見通しをもった指導支援の方向性を明確にしていきたいと思います。

設問6 学校や家庭における悩みなどを気軽に相談できる体制が整っていると思いますか。



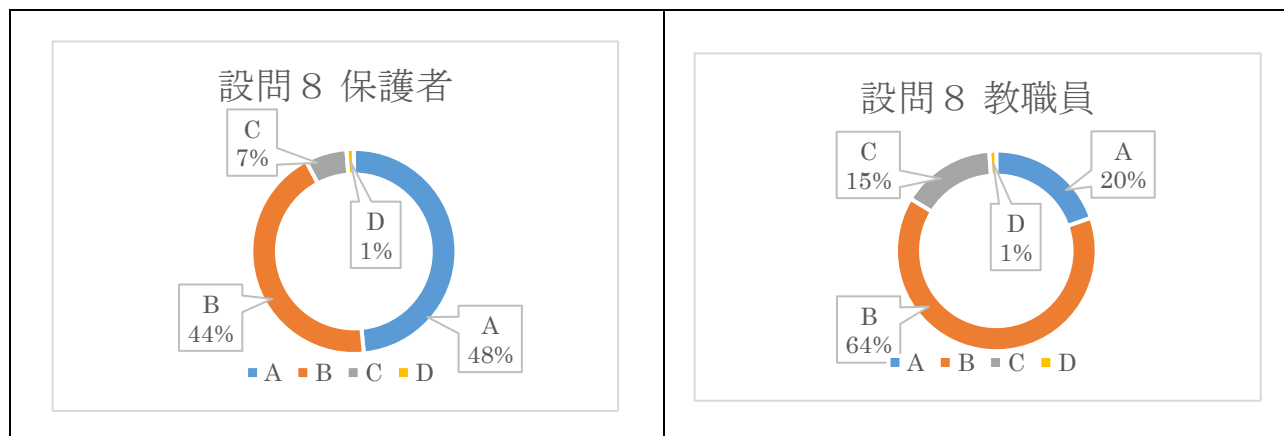
保護者の回答は、AとBを合わせた評価が3年間継続して改善傾向にあり、概ね良好な評価でした。保護者のAが43%に対して教職員のAが26%であり、保護者と教職員の評価との間に差がありました。また、保護者の自由記述では、「先生方も忙しそうで声をかけづらい」「相談体制について、どこに（誰に）相談すればいいのかわからない」といった声を挙げていただきました。保護者と一緒に支援策を検討したり、専門的なアドバイスをしたりすることが求められているといえます。コロナ禍の影響で直接会って話す機会は減っていますが、複数回行われる懇談会や日々の連絡ノート、電話等、様々な方法を通じて日常的なやりとりを継続し、保護者が相談しやすい関係づくりをさらに進めてまいります。

設問7 交流や宿泊行事、校外学習は、児童生徒の実施にあったものになっていると思いますか。



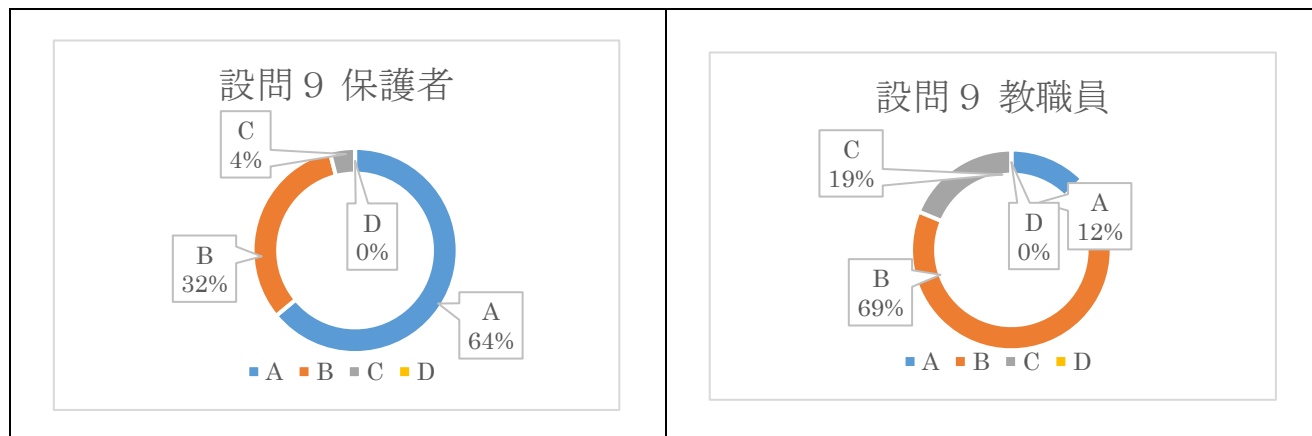
保護者の回答は、AとBを合わせた評価が90%を超え、概ね良好な評価でした。一方で、教職員の回答は、Cは15%と昨年度と比べて増加傾向でした。また、保護者の自由記述では、「行事について、宿泊行事は「学年で同じ所」という事だと思いますが、2ブロックと3ブロックでは体力面でぜんぜん違うので、実態にあっていない」といった声を挙げていただきました。このことから、今年度実施した各行事等の反省をもとに、子どもの実態に合った各種行事の計画や児童生徒の興味関心にもとづいた校外学習の計画を進めてまいります。

設問8 学習環境（学校の施設・設備、教室環境など）は、児童生徒にとって生活しやすいものになっていると思いますか。



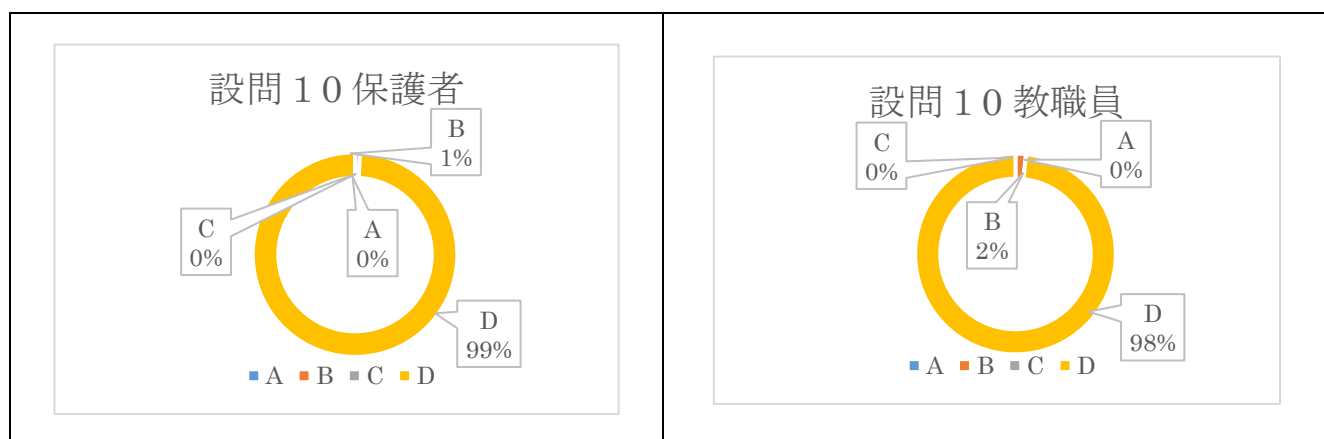
保護者の回答は、AとBを合わせた評価が90%を超え、概ね良好な評価でした。一方で、教職員の回答は、Cは昨年度と比較して増加しています。また、保護者の自由記述では、「夏は扉を開けても暑い、冬は暖房を入れていても寒く、集中できない。」「教室や廊下の床が砂だらけ」といった声を挙げていただきました。学習環境については、本校の子どもたちの学習環境としてふさわしいものとなるように、職員がこまめに清掃を行い、改善を進めてまいります。冷暖房については、構造上、外気が入ってくるため、今ある冷暖房で対応するのは難しいですが、換気との兼ね合いを考えつつ、健康面に配慮して、今後も過ごしやすい環境となるように心がけてまいります。

設問9 寄宿舎では、舎生にとって安心安全な環境を整えたり、温かい支援が行われたりしていると思いますか（現舎生保護者）。



保護者の回答は、AとBを合わせた評価が95%を超え、概ね良好な評価をいただきました。継続して安全な環境づくりや丁寧な支援に努めてきていることが評価されていると考えられます。引き続き、寄宿舎生にとって安心、安全、快適な寄宿舎運営を図ってまいります。

設問10 今年度、あなたのお子さんが体罰をされたということを見たり聞いたりしたことはありますか。



保護者、教職員ともに、B「ある」が昨年度に比べて1～2%と高くなりました。保護者、教職員共に自由記述には、「言葉の使い方」についての回答がありました。体罰とは言えませんが、言葉の使い方によって、不適切な行為であることを重く受け止め、内容について全校で確認するとともに、教職員の指導支援について、自分で振り返る、互いに指摘し合うことができるように、今後も研修等を継続して行い、人権感覚を磨き続けてまいります。

### 3 寄宿舍アンケート（寄宿舍を利用している保護者アンケート）

設問1 寄宿舍の職員は、生活年齢や障がい特性に配慮し、専門知識を活かした指導を行おうと努力していると思いますか。

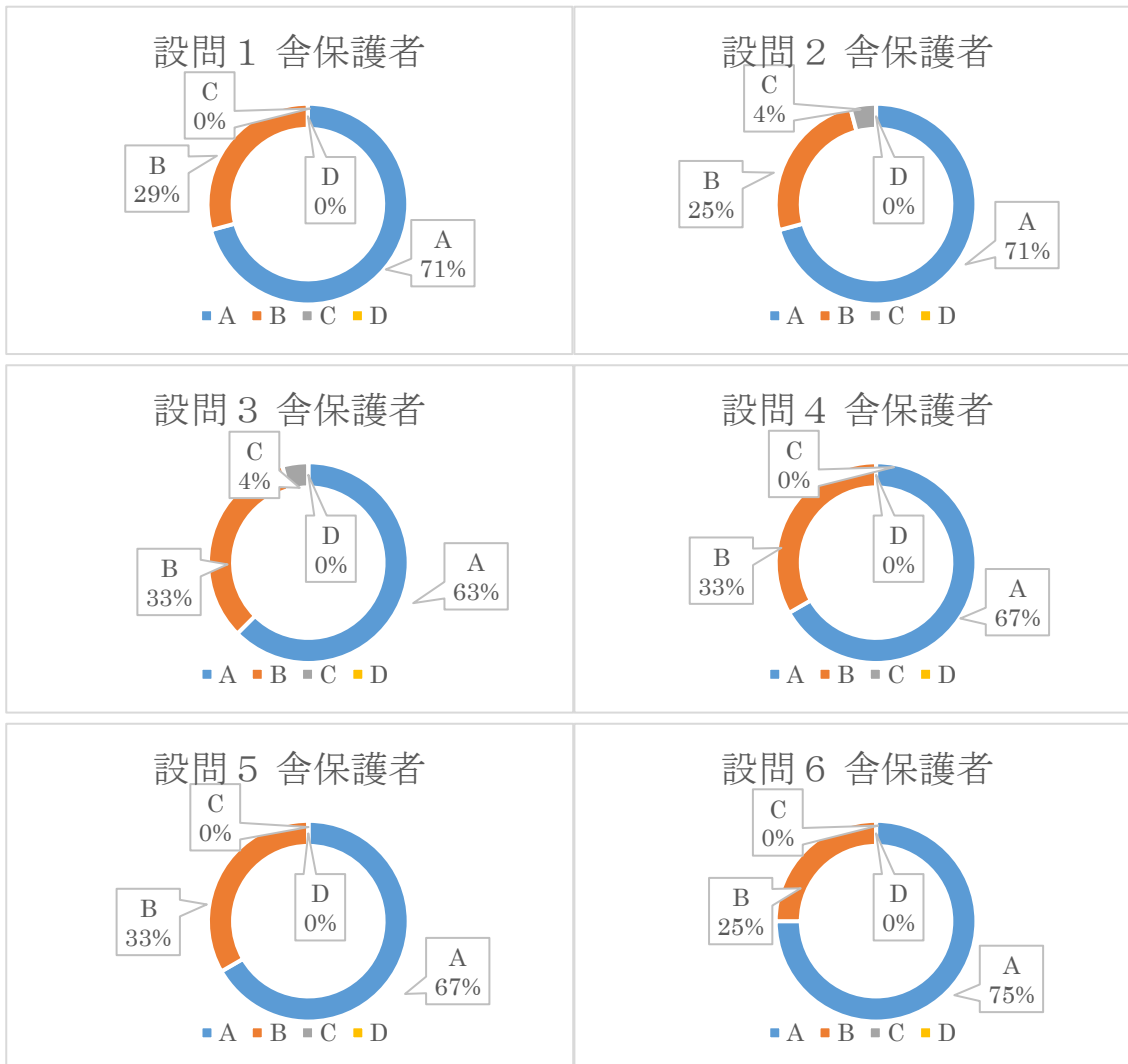
設問2 寄宿舍では個別の指導計画を作成し、それに基づいて適切な指導、支援をしていると思いますか。

設問3 日々の連絡や個別懇談、参観等を通じて、支援の共通理解がもてていると思いますか。

設問4 寄宿舍での生活を通して、その子なりに基本的な生活習慣（あいさつ、身辺自立、性に関すること等）が育っていると思いますか。

設問5 寄宿舍の施設・設備・舎室等は、児童生徒にとって安心安全で生活しやすいものになっていると思いますか。

設問6 寄宿舍では、プライバシーに配慮した同性介助の徹底がなされていると思いますか。



#### 【考察】

どの設問においてもA「そう思う」、B「だいたいそう思う」の合計が96～100%であり、概ね良好な評価をいただきました。その中で設問2と3において、C「あまりそう思わない」がそれぞれ4%でした。設問2、3に関する具体的な記述はありませんでしたが、昨年度に引き続き、コロナ禍で自由に学校や舎を参観する機会が少なかったことが影響していると予想されます。保護者との連絡や支援に関する共通理解をより深めるために、個別の指導計画のさらなる充実をすすめたり、端的かつ具体的な連絡を行ったりしてまいります。

### 3年間の比較

